

CEL ホームページ

<https://www.og-cel.jp/>

エネルギー・文化研究所 (CEL) の活動内容や
情報誌「CEL」バックナンバーをご覧になれます。

※CEL ホームページに掲載する「読者アンケート」にご協力願います。
下記の二次元コードで読みとることができます。



Facebook ページ

<https://www.facebook.com/osakagas.cel>

note コラム

<https://note.com/ognwcel/>

volume132
March 2023

特集

空き家・空き地と ソーシャルデザイン

2023 (令和5) 年3月1日発行

発行

大阪ガスネットワーク(株)
エネルギー・文化研究所(CEL)
〒541-0046
大阪府大阪市中央区平野町4-1-2

発行人

金澤成子

企画・制作

熊走珠美

特集担当

弘本由香里

編集人

日下部行洋 (平凡社)

編集

梶平凡社

アートディレクション & デザイン

okamoto tsuyoshi +

校正

(株)アンデパンダン

印刷・製本

(株)東京印書館

お問い合わせ窓口

大阪ガスビジネススクリエイト(株)
TEL 06-6205-4650
FAX 06-6205-4759
CEL@ogbc.co.jp

Research Institute for Culture, Energy and Life
©2023 OSAKA GAS NETWORK CO., LTD.

※禁無断転載複製
※本誌掲載の寄稿文、インタビュー、レポートなどの内容は
必ずしも大阪ガスネットワークの見解を示すものではありません。

CELからのメッセージ

未来を育むコモンズへの期待

大阪ガスネットワーク(株)エネルギー・文化研究所

所長 金澤成子 Kanazawa Shigeko



子高齢化など人口減少に伴う社会システムの行きづまり
や昨今の新型コロナウイルスの感染拡大のなかで、孤立
や分断を乗り越えるため、「共助」の視点を暮らしに取り入れるこ
とが見つめ直されてきています。今号では、空き家・空き地を活
用し、地域創生も実現した先進事例を取り上げました。

障がい者就労、高齢者介護、子育て支援など多様な課題に挑
み、制度の縦割りを超え、誰もが活躍する共生のまちを実現した
佛子園理事長の雄谷良成氏のお話からは、「ごちゃまぜ」に人が
集まることで、新しい絆や活力が生まれ、地域の新たな可能性が
拓かれることを実感しました。空き地を活用した農園を通じて、
シニア男性たちの居場所と役割を創出したコミュニティソーシャル
ワーカーの勝部麗子氏からは、コモンズ(共同空間)を通じて、人と
人をつなげ、あらためて社会を結び直すことの意義を教えられま
した。高齢化が進む団地の空き室を、障がい者就労による食堂
に再生したチュラキューブの中川悠氏の対談からは、ソーシャルビ
ジネスの「かけ算」で、まちの「すき間」に新たな未来を見出す取
り組みに、無限の可能性と企業の参画の必要性を考えさせられま
した。

目の前にある課題を解決すると同時に、どのような社会にした
いのかを考え、その実現のために人々を動かすプロジェクトを作り
出すことは、地域のステークホルダーとの合意形成も含め、決して
容易ではありません。駒ヶ林の空き家を活用した多文化共生のま
ちづくりの原動力には、インクルージョン(包摂)&インキュベーショ
ン(支援)というコミュニティの地力がありました。その地力を活か
すうえで、地域住民が、他者を受け入れ、自分事としてまちづくりに
参画するきっかけとなる「空き家・空き地」の存在も重要な資源
といえます。デジタル化の進展などで生活環境も大きく変わり、コ
ミュニティへの帰属意識やコミュニケーションが希薄になるなか、
あえて「つながり」を生む社会に変えていく必要があると思います。
そのためにも、困窮世帯の居住の安定を含め、未来を育むコモン
ズを創り出すソーシャルデザインへの不断の挑戦は、人口減少時
代の関頭に立つ私たちの使命ではないでしょうか。